

### 3 - 5 房総半島南東沖の重力異常について

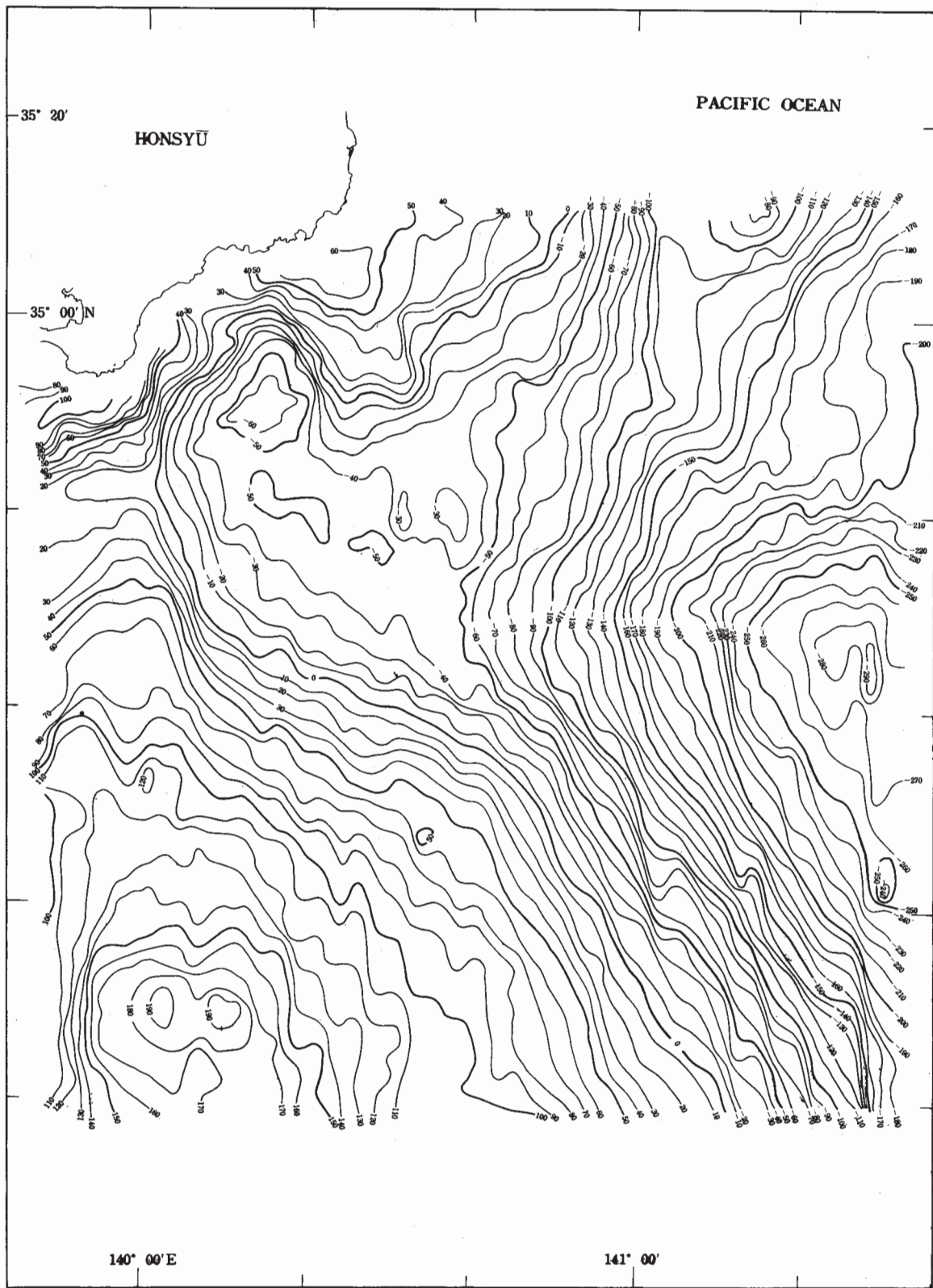
#### The Gravity Anomaly at the Southeast Offing of Boso Peninsula

海上保安庁水路部  
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和 50 年 5 月から 7 月にわたり，房総半島南東沖の海の基本図測量を実施した。その海底地形，地質構造調査の結果については既に報告したが，今回重力測定の結果がまとまったので，ここに報告する。

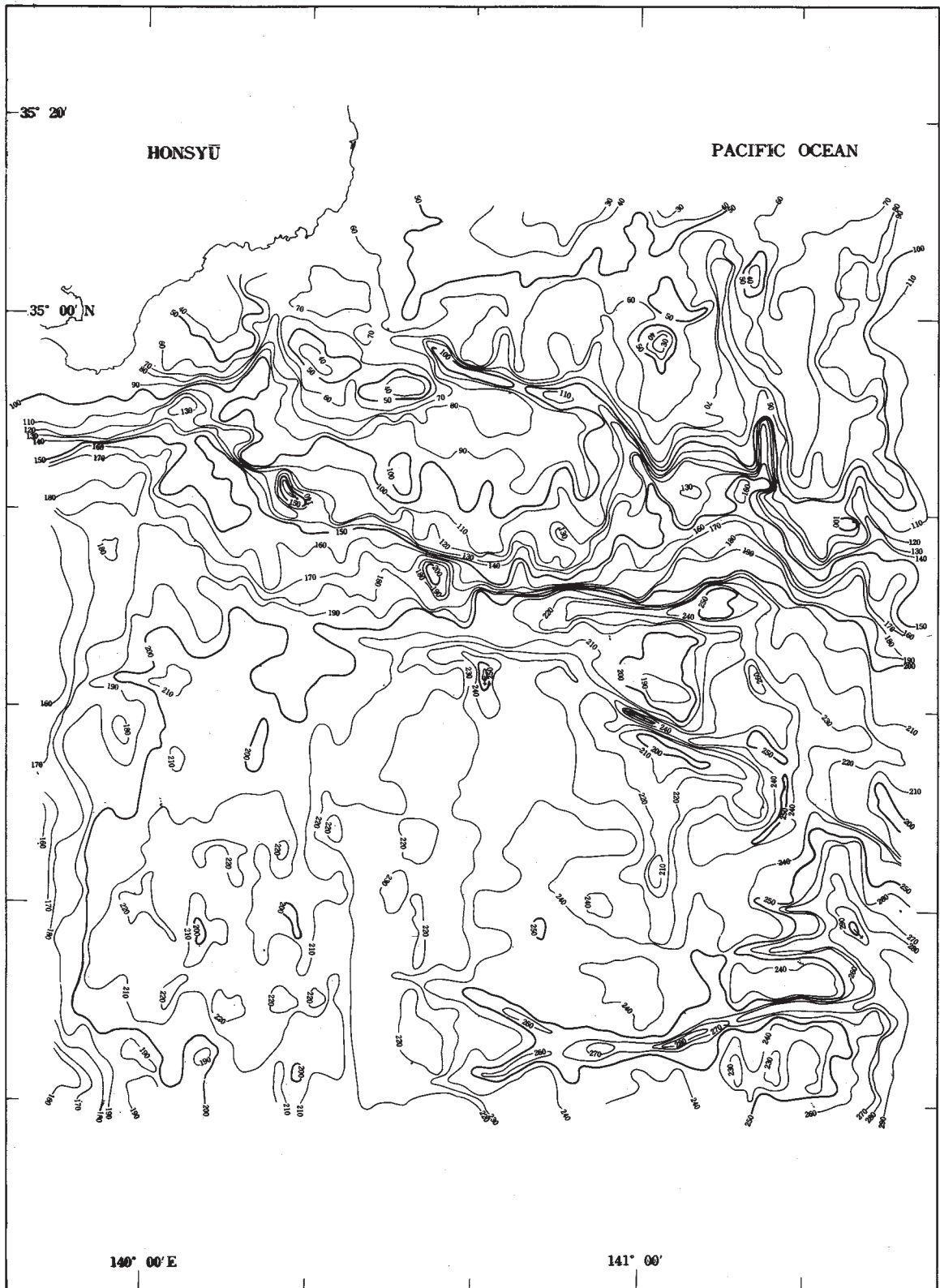
実施した測量船は「昭洋」で，南北方向に 2 マイル間隔の測線を設定し，これに 6 本の東西方向の検測線を設けて実施した。船位はロラン C 及び NNSS によって決定した。使用した重力計は TSSG 型海上重力計で，その測定精度は 5 ~ 10mGal である。総測点数は約 7000 点で，重力計の検定は，東京の「昭洋」専用棧橋，横浜新港及び東京日の出棧橋で行った。この結果から free - air 異常図（第 1 図）及び Bouguer 異常図（第 2 図）を 10mGal 等値線で表示した。Bouguer 異常図は Bouguer 補正を  $0.0688 \times d$ （メートル）mGal で計算した。これは Bouguer 異常で，地形補正は含まれていない。free - air 異常図で見ると，負異常の区域は日本海溝，伊豆・小笠原海溝区域から相模トラフの周辺まで広がっている。Bouguer 異常図で見ると伊豆・小笠原海溝，相模トラフ及びこれには含まれた南西海域で大きく，北方すなわち日本列島に向って小さくなっている。Bouguer 異常図に見られる顕著な細長い異常は，地形補正を含まない単純 Bouguer 補正をほどこした結果，海底の谷状地形の影響が残ったものである。

（我如古康弘，茂木昭夫）



第1図 房総半島南東沖の free-air 異常 単位：ミリガル

Fig. 1 Free-air gravity anomalies at the southeast offing of Boso Peninsula. Anomaly values are in milligals.



第2図 房総半島南東沖の Bouguer 異常 単位：ミリガル

Fig. 2 Bouguer gravity anomalies at the southeast offing of Boso Peninsula. Anomaly values are in milligals.